



赤田 克一さん
(栄町)

Ｊリーグ百年構想を存じますか？「オラが町のオラがサッカーチーム創設を最終目的としたものではなく、我々全ての人がスポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げることをスローガンにした構想です。

この考えには緑の芝生におおわれたスポーツ施設をつくり、サッカーに限らずやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくることを含みます。

つまり地域密着のクラブチームに私たちが参加することが様々な競技を様々な世代、人たちと交流することを可能にし、誰もがスポーツライフを楽しむことができるという

ことです。決してオラがチームがＪリーグに昇格することがすべてではないのです。

御代田町には芝生がはられた公園、広場も多く、B&G海洋センターには天然芝でサッカーをプレーできるグラウンドもあります。

近くには野球場、テニスコート、体育館や屋内プールも併設されています。施設面でこれ以上何を望むのでしょうか？

良いクラブチームにはインフラ面だけでなくソフト面、つまり指導する人材や参加するメンバーの充実も可能にする相乗効果が期待できます。良いクラブには良いスタッフと良い選手が集まるのです。

人口一万五千の小さな地域でもスポーツクラブの運営は可能です。今こそクラブ創設を強く望まざるにはいられません。



11月15日は「七五三」である。

笹の七夕祭りである。

地域によって違いはあるが、江戸時代から、邪気を払い、延命を祈る五節句の元旦（一月一日）・上巳（三月三日）・端午（五月五日）・七夕（七月七日）・重陽（九月九日）の内、子どもの成長・発達と関係のある三節句を祝う風習である。

満年齢では二・四・六歳で、身辺処理能力面ではそれぞれ一人で、不十分な排泄が訴えられる四歳、着衣で寒暖の調節が自立する六歳である。

三歳は「髪結いの祝い」で、女子を祝う桃の節句、ひな祭りである。

こうした先人の積み重ねられた貴重な経験から生まれた習慣や基準も、いつの間にか商業ベースに乗せられ「貸衣装と写真屋、お菓子屋デー」になって、本来の意味が薄れてきている。

五歳は「袴着の祝い」で、男の子を祝う菖蒲の節句、五月人形の祭りである。七歳は「帯締め・の祝い」で、女兒の裁縫の上達と、勇氣ある男児の成長を願う

少子化の中で、子育て支援の充実が強く求められているが、家庭や地域で、こうした行事を通してその絆をさらに強めていきたいものです。 東口 重信

